

科目名	建築設計製図Ⅱ									
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWINGⅡ									
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		中園 理恵子	
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建設会社にて建築設計に従事	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年									
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる				
	○					木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。				
		○				製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。				
		○				製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。				
		○				製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。				
テキスト・教材 参考図書	超入門建築製図 (市ヶ谷出版社)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	課題説明・エスキース					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	2	エスキース					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	3	設計製図					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	4	設計製図					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	5	設計製図・模型制作					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	6	設計製図・模型制作					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	7	設計製図・模型制作					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	8	課題説明・エスキース					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	9	エスキース					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	10	設計製図					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	11	設計製図					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	12	設計製図・模型制作					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	13	設計製図・模型制作					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	14	設計製図・模型制作					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	15	設計製図・模型制作・プレゼンテーション					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	課題	○	◎				50%			
	発表・作品		◎				50%			
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない									

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	今泉 清太	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築計画とは何かを説明できる	
		○				既存の建築計画を調査・研究している	
		○				これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティ施設					
	2	4-2図書館 図書館の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	4-2図書館 公共図書館の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	4-4コミュニティーセンター、公民館				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	8	4-5確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	5-2病院 病院の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	5-2病院 各室の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	5-3確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	15	総括				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	課題・プレゼンテーション	○	◎				10%
履修上の注意	先ずテキストをしっかり読んで予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。						

科目名	建築構造力学Ⅱ									
科目名(英)	Building Structural MechanicsⅡ									
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	古賀 俊光		
実施年度	2020年度			実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年									
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				応力の算出することができる。				
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。				
	○	○				トラスの軸力を図解法で算出することが出来る。				
	○	○				トラスの軸力を切断法で算出することが出来る。				
	○	○				トラスの軸力を節点法で算出することが出来る。				
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	力学Ⅰの復習								
	2	片持ち梁の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	張出し梁の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	単純ラーメンの応力(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	単純ラーメンの応力(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	単純ラーメンの応力 ・ 確認試験1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	7	片持ち梁系ラーメンの応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	3ヒンジラーメン系の反力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	3ヒンジラーメン系の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	応力图すべての確認試験2					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	11	トラス1(図解法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	トラス2(切断法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	トラス3(節点法)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	トラス ・ 確認試験3					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	15	力学Ⅱの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○		◎				40%		
	小テスト	◎		◎				40%		
	宿題・レポート	○		◎				20%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	建築一般構造Ⅱ											
科目名(英)	ntroduction of Building ConstructionⅡ											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		古賀 俊光		
実施年度	2020年度			実施時期		後期		担当者実務経験		設計事務所にて 建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築工学科・建築CAD科・インテリアデザイン科・建築学科(昼)1年											
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。											
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。						
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。						
		○				断面算定をすることが出来る。						
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。						
	○	○				トラス構造について説明することが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは										
	2	RC構造の特徴						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	梁・柱部材						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	断面算定						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	鉄骨構造の概要						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	鋼材の種類と性質						授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11	各部材の設計						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	接合(高力ボルト接合)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	接合(溶接接合)						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	柱脚、トラス構造						教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	15	構造Ⅱの総まとめ						授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								40%
	小テスト	◎		◎								40%
	宿題・レポート	○		◎								20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	建築施工 I								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者	集路 正巳	
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験	総合建設会社にて、 主に施工管理職として勤務	
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 1年								
授業概要	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。 建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。								
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標			
	○	○				建築生産の基本概念を説明できる			
	○	○				建築生産の基本概念と設計から着工までの流れを説明できる			
	○	○				建築工事を構成する各工種の工程と留意事項を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)			
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	建築生産の基本概念と着工までのあらし 建築生産(設計と施工)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	工事に着工する(着工)①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	工事に着工する(着工)②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	仮設・準備工事①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	仮設・準備工事③					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	土工事・地業工事・基礎工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	確認テスト① 鉄筋コンクリート工事概説					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9	鉄筋工事①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	鉄筋工事②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	型枠工事					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	コンクリート工事①					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	コンクリート工事②					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	コンクリート工事③					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	確認テスト②まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○		○				80%	
	小テスト	○		○				20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	建築法規 II						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	徳田 美穂子
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。	
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。	
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	階段、廊下の幅				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	階段、廊下の幅②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	確認申請などの手続き1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	確認申請などの手続き2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	構造と規模についての規定				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	用途地域1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	用途地域2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	道路概要				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	敷地と道路の関係				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	建ぺい率1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	建ぺい率2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	容積率1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	容積率2(緩和)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	容積率3(緩和)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	15	確認問題 (筆記試験)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	JWCAD II									
科目名(英)	jwcad exercise									
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	吉田 麻美	
実施年度	2020年度			実施時期	後期			担当者実務経験		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年									
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】 配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】 各自で条件にあったフリープランを作成する									
授業形式	講義： △			演習： ○	実習：		実技：	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。				
	○	○				用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールに従った正確な作図することができる。				
		○	○			鉄筋コンクリート造の配置図・平面図・断面図・短矩図・床伏図を作成することができる				
		○	○			自ら用途に応じてJwCADの各種設定を行うことができる。				
		○	○			レイヤの設定、かき分けができる。				
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 平面図					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	2	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	3	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	4	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ・手直し					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	5	住宅フリープラン課題説明 敷地の読み取り方、コンセプト案設定					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	6	作図課題 コンセプト案決定、エスキース					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	7	作図課題 図面チェックを受けながら、課題を進める					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	8	作図課題 図面チェックを受けながら、課題を進める、課題提出					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	9	作図課題 課題説明 (RC造)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	10	作図課題 図枠作成・レイヤ設定・配置図作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	11	作図課題 1階床伏図作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	12	作図課題 1階床伏図作成 図面チェック					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	13	作図課題 2階床伏図作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	14	作図課題 2階床伏図作成 図面チェック					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
15	作図課題 1階小屋伏図作成 印刷設定、提出					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。				
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題提出	○		○				30%		
	課題作品			○	○			60%		
	提出状況	○		○				10%		
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。									

科目名	Photoshop ・ Illustrator II						
科目名(英)	Photoshop ・ Illustrator II						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	高山 裕明	
実施年度	2020年度		実施時期	後期	担当者実務経験	デザイン設計事務所にて、製品・施設等の企画・デザインに従事	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	室内空間のスペシャリストとして活躍する専門性として、自分の考えを伝え、表現できること(プレゼンテーション能力)が挙げられる。プレゼンテーションを行う際、読みやすく見やすい資料をデザインする必要がある。伝わるデザインの理論を学び、Photoshop / Illustrator の機能を活かして、読みやすく見やすい作品パネルや、ポートフォリオ制作技術の習得を目指す。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				「読みやすさ」の要素を理解し、的確な書体や文字サイズ、行間・字間の設定ができる。	
	○	○				「見やすさ」の基本ルールを理解し、レイアウト作業に応用することができる。	
	○	○				CAD図面との連携に関するテクニックを学び、表現力を高めた視覚的効果を付加することができる。	
	○	○				PhotoshopとIllustratorの連携を意識した処理ができる	
テキスト・教材 参考図書	『伝わるデザインの基本』高橋佑磨、片山なつ(著) 技術評論社 2016年 『建築とインテリアのためのPhotoshop+Illustratorテクニック』長嶋 竜一(著) エクスナレッジ 2014年 『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書』ピクセルハウス(著) 技術評論社 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Illustrator & Photoshop の基本				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	2	Illustrator 読みやすさの要素 書体とフォント 文字組み				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	3	Illustrator 見やすさの要素 レイアウトの基本ルール				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	4	Illustrator 見やすさの要素 配色の基本ルール				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	5	Illustrator プレゼンパネルの作成 グリッドデザイン				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	6	Illustrator CAD図面に使えるテクニック				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	7	確認テスト/Illustrator の覚えておきたい機能				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	8	Photoshop 線画をパスにする着彩テクニック				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	9	Photoshop 壁の色を変更する				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	10	Photoshop 複数の写真を合体する				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	11	Photoshop 写真の不要なものを消去する				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	12	Photoshop パースに人物を合成する				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	13	確認テスト／Photoshop の覚えておきたい機能				授業で習った内容は、復習し習得すること	
	14	Illustrator と Photoshop を使ったパネル制作				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15	Illustrator と Photoshop を使った作品集制作				授業で習った内容は、復習し習得すること	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)各項終了時に課題提出を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	◎				80%
	課題提出	○	◎				20%
履修上の注意	授業中の指示を聞き落とさないこと。課題は指示された作業の正確さと、期限内提出を評価する。 授業では一部の機能しか解説できないため、より使いこなしたい場合は教科書を活用すること。						

科目名		住宅デザイン									
科目名(英)											
単位数		4単位		時間数		60時間		担当者		加藤 啓子	
実施年度		2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年		インテリアデザイン科 1年									
授業概要		課題制作を通して、インテリアスタイルまで考慮した住宅デザイン設計の知識と技術の習熟を図る									
授業形式		講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)		言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
			○	○			平面計画と展開図を問題なく作成することができる				
			○	○			デザインに統一感のあるインテリアスタイルを配置することができる				
			○	○			平面図と展開図から1焦点パースによりパースを描くことができる				
			○	○			平面図からアクソメ図を描くことができる				
			○	○			期日までにプレゼンボードを作り上げることができる				
テキスト・教材 参考図書		オリジナルプリント・【参考資料】前年度課題作品									
授業計画		回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
		1	概要説明 インテリアデザインの方向性を決める					授業内で終えられなかった作業は次回までに完了させておくこと			
		2・3	平面図と展開図で表現								
		4・5	平面図と展開図作成 インテリアをレイアウト								
		6・7	パースペン描き 立体的イメージをつくる								
		8・9	パース着色作業								
		10・11	パース着色完成 パースの提出								
		12・13	アクソメ図の作図 平面図を使って								
		14・15	アクソメ図のペン描き								
		16・17	アクソメ図着色作業 パース・アクソメ図の提出								
18・22	プレゼンボード作成 タイトル・コンセプト・素材集め										
23・27	プレゼンボード作成 レイアウト										
28・30	プレゼンテーション 講評										
評価方法		(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
		課題提出		○				30%			
		課題作品		○	○			60%			
		提出状況		○				10%			
履修上の注意		出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。									

科目名	ショップデザイン											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		山崎 孝			
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年											
授業概要	【3D-CAD(Archi CAD)を使い ビジュアル表現における イメージを具体化する表現方法を修得する】 ・Archi CADは3次元モデルを組み上げながら図書を作成するところに特徴があり、作成する3次元モデル(3階建てビル)は平面図・立面図・断面図・パースでの変更などすべてが連動しているので出来上がったデータのプレゼンテーションへのスムーズなビジュアル表現を修得する ・敷地条件等が同じ広さでの商空間(ショップ)を各自オリジナルデザインとしてArchi CADでプレゼンタータのビジュアル表現を修得する											
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				BIM(ArchiCAD)のメリット・機能について理解し説明できる						
		○	○			ビジュアル表現におけるイメージの具体化する表現方法を2D・3Dを作図する事ができる						
		○	○			製図の基本に則して建築物の配置図及び平面図を作図することができる。						
		○	○			製図の基本に則して建築物の断面図及び立面図を作図することができる。						
		○	○			製図の基本に則して建築物の完成予想図(パース)を作図することができる。						
テキスト・教材 参考図書	・GRAPHISOFT ArchiCAD(Magic) ・オリジナル資料											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1・2	BIM(ArchiCAD)の基本と仕組みArchiCADの画面構成説明とツールボックス演習					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	3・4	ArchiCADの画面構成説明とツールボックス演習練習-3階建てビルをArchiCADで仕上げる					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	5・6	練習-3階建てビルをArchiCADで仕上げる					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	7・8	練習-3階建てビルをArchiCADで仕上げる ・1階にカフェを作ろう					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	9・10	練習-3階建てビルをArchiCADで仕上げる ・断面図・立面図を仕上げる					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	11・12	練習-3階建てビルをArchiCADで仕上げる ・3階建ての全景パースを仕上げる					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	13・14	練習-3階建てビルをArchiCADで仕上げる ・プレゼンテーションボード仕上げ					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	15・16	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる①					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	17・18	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる②					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	19・20	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる③					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	21・22	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる④					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	23・24	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる⑤					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	25・26	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる⑥					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
	27・28	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる⑦					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。					
29・30	オリジナルショップデザインをArchiCADで仕上げる⑧					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。						
評価方法	(1)2つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	プレゼンボード前半課題提出			○		○					50%	
	プレゼンボード後半課題提出			○		○					50%	
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする											

科目名	ビジネスマナーⅡ						
科目名(英)	Business manner						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	津嘉山 佳子
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	専門学校にて、ビジネスマナー教員として勤務
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客応対、電話応対、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。						
授業形式	講義：○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					○	サービス接遇検定3	
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。	
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。	
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する	
				○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	検定試験について 受験級の選択・検定結果について					
	2	サービス接遇検定対策① 演習および解説 第39回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	3	サービス接遇検定対策② 演習および解説 第40回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	4	サービス接遇検定対策③ 演習および解説 第41回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	5	サービス接遇検定対策④ 演習および解説 第42回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	6	サービス接遇検定対策⑤ 模擬試験					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	7	サービス接遇検定対策⑥ 演習および解説 第43回					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	8	サービス接遇検定対策⑦ 演習および解説					過去問題プリントを事前に解答しておくこと
	9	来客応対1 接遇の意義と重要性を理解する 接遇の心構え					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	来客応対2 来客応対の流れ 来客応対の基本用語					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	来客応対3 名刺の受け方・渡し方・取扱い					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	来客応対4 ロールプレイング テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	電話応対1 電話の特性 電話話法のポイント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	14	電話応対2 電話のかけ方・受け方 演習プリント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める					定期試験に備えて、復習をしておくこと
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				75%
	ロールプレイングテスト	○	○				15%
	態度・意欲				○	○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	就職実務 I B											
科目名(英)	Career Study 1B											
単位数	1単位			時間数		15時間		担当者		各クラス担任		
実施年度	2020年度			実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年											
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する											
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる						
	○					基本的な面接対応ができる						
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある						
	○	○				企業研究の方法を知っている						
		○				学校求人を利用するための条件を知っている						
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	企業講話 実践的な課題の提案 ＊メールアドレスの確認と管理										
	2	就職活動に関する心構え ものづくり系の仕事とは										
	3	就職活動に関する心構え 業界で必要なサービス精神										
	4	就職活動に関する心構え 必要なスキル										
	5	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション1										
	6	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション2										
	7	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション3										
	8	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション4										
	9	・履歴書の書き方 ・メールアドレスの管理										
	10	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理										
	11	・履歴書提出と添削										
	12	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策										
	13	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策										
	14	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策										
	15	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策										
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	受講態度・意欲		○		○						30%	
	課題の提出		○		○						70%	
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする											

科目名	キャリア教育 I（選択）						
科目名(英)							
単位	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	企業が求める人材を把握し、就職活動を円滑に進めるための意識付けと、求職票・履歴書の具体的な書き方や面接対策など、そのまま就職活動に活かせる実践的な演習を中心に授業を進めていく						
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
						○ 自己分析を基に、自己PRをまとめることができる	
						○ 企業の目線を意識した志望動機を書くことができる	
						○ 面接時の基本的なマナーが身につく、問題なくふるまうことができる	
						○ 面接官の質問に対し、問題なく受け答えができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動のための準備 ガイダンス					
	2	求職票の書き方 「自己PR」の書き方				自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと	
	3	求職票記入 下書き・添削					
	4	履歴書の書き方 「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など				自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと	
	5	求職票受付面接について 概要説明					
	6	求職票受付面接練習 入退室・立ち居振る舞い・おじぎ				授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと	
	7	求職票受付面接練習 面接官の視点・第一印象について					
	8	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ①					
	9	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ②					
	10	求職票受付面接練習 通しで実践練習					
	11	求職票受付面接練習 通しで実践練習					
	12	求職票受付面接練習 通しで実践練習					
	13	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加				参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと	
	14	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加					
	15	いろいろな報告書の書き方 ビジネス文書の作成				学んだ文書の書き方について復習しておくこと	
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	キャリア教育Ⅱ（選択）											
科目名（英）												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		各クラス担任		
実施年度	2020年度			実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年											
授業概要	基本的にはキャリア教育Ⅰの内容の復習を中心に進め、より就職内定に近づける力を養っていく											
授業形式	講義：△			演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 （到達目標）	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
					○	自己分析を深く進め、自己PRをまとめることができる						
					○	企業の目線を意識した志望動機を書くことができる						
					○	面接時のマナーが十分に身につき、自信をもってふるまうことができる						
					○	面接官の質問に対し、自信を持って十分に受け答えができる						
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	求職票の書き方 「自己PR」の書き方練習						自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと				
	2	求職票記入 下書き・添削										
	3	履歴書の書き方 「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など						自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと				
	4	添 削 「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など										
	5	求職票受付面接練習 入退室・立ち居振る舞い・おじぎ ①						授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと				
	6	求職票受付面接練習 入退室・立ち居振る舞い・おじぎ ①										
	7	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ①										
	8	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ②										
	9	求職票受付面接練習 通しで実践練習 ①										
	10	求職票受付面接練習 通しで実践練習 ②										
	11	求職票受付面接練習 通しで実践練習 ③										
	12	求職票受付面接練習 通しで実践練習 ④										
	13	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加						参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと				
	14	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加										
15	いろいろな報告書の書き方 ビジネス文書の作成						学んだ文書の書き方について復習しておくこと					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価（可、不可）で判断する。											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	受講態度・意欲		○		○						30%	
	課題の提出		○		○						70%	
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする											

科目名	GCB II										
科目名(英)	Global Citizen Basic II										
単位数	1単位			時間数		15時間		担当者		各クラス担任	
実施年度	2020年度			実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年										
授業概要	GCB I で学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCB II ではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。										
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○				考えることの大切さを知る					
	○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る					
		○				目標の大切さ、志の大切さを知る。					
		○				行動する大切さに気づく。					
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII テキスト										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～									
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～									
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～									
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～									
	5	伝える力を学ぶ(2)「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～									
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ) ～プロとは～									
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本、日本の中の私②～									
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと									
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。										
						言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲					○	○				30%
	課題の提出					○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする										

科目名	検定対策ゼミ I B(選択) インテリアコーディネーター						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	赤星 亜美
実施年度	2020年度		実施時期	後期		担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科 1年						
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコーディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				インテリアコーディネーター一次試験合格レベルの知識を身につけることができる	
	○	○				インテリアコーディネーター二次試験合格レベルの知識を身につけることができる	
テキスト・教材 参考図書	テキスト：インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター問題集(上・下) その他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	8章 各種エレメント					
	2	16章 消費者関連法令				予習・復習することを心がける。	
	3	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	4	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	5	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	6	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	7	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	8	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	9	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	10	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	11	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	12	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	13	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	14	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
	15	模擬試験				前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。	
評価方法	(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。(2)20回目から宿題あり。(3)全国模試を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	全国模試	○					50%
	小テスト	○					25%
	宿題	○					25%
履修上の注意	予習復習(配布プリント)をしっかりとすること。						

科目名	数学ゼミ I B(選択)						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田 麻美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 1年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける	
	○	○				文字式を利用した応用問題が解ける	
	○	○				連立方程式の基本問題が解ける	
	○	○				連立方程式の応用問題が解ける	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】 式の計算 単項式と多項式				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】 文字式の利用 偶数と奇数の和					
	3	【演習問題】 文字式の利用 等式の変形					
	4	【演習問題】 文字式の利用 図形の関係式の変形					
	5	【演習問題】 連立方程式 加減法と代入法を用いた解き方					
	6	【演習問題】 連立方程式 いろいろな連立方程式の解き方					
	7	【演習問題】 連立方程式 連立方程式の利用・身近な問題を解く					
	8	【演習問題】 総合復習 まとめ					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	BIM 専攻 I B(選択)							
科目名(英)	Building Information Modeling I B							
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者	道脇 力
実施年度	2020年度		実施時期		後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年							
授業概要	・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。							
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技: ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。		
		○				レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。		
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。		
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」					前回の復習を行うこと	
	2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答					前回の復習を行うこと	
	3	課題2: 作成モデルのリノベーション「コンセプト」					情報、資料収集を行うこと	
	4	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス①」					情報、資料収集を行うこと	
	5	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス②」					情報、資料収集を行うこと	
	6	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング①」					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	7	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング②」					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	8	課題2: 作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」					必要提出資料の確認を行うこと	
評価方法	(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	発表・作品		◎				50%	
	課題提出		◎				50%	
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。							